

塙町の絵馬

『楠公父子の別れ』（子育地藏堂内）

大字塙字本町四五の二

本堂は昭和五年に新築されたもので、本尊は廃寺・地藏院より移され、この奉額も地藏院より移されたものであろう。

材質は杉材で、色彩が施してある。

銘文は以下の通り。

「奉獻

大平右源太宗直

文久二壬戌七月良辰」



『御詠歌』（薬王寺薬師堂）

大字台宿字大久保五三

本堂入口の上に掲げてある。奥の院があった米山参道には四国八十八ヶ所を祀った石仏があり、本額もその信仰より掲げられたものである。材質は杉板材で刻文は白塗してある。銘文は以下の通り。

「五十五番 伊豫國三島宮

このところ

みしまにゆめも

さめければ

へつくうとても

おなし

すいじゃく

敬白

文政十一歳子三月」



御詠歌（薬王寺）

『湯舟観音堂の絵馬』（湯舟観音堂）

大字山形字桜下一三四

湯舟観音は馬の守護仏として広く茨城県内からも参詣があつた。特に小絵馬が多い点では畠南随一であらう。最古のものと思われるものは「文政二庚寅星初春」の銘があるものだが、屋外にあるので風雨蝕が甚だしい。

『武者絵』（東浄寺薬師堂）

大字川上字薄久保三三

横長の家形絵馬で、板のつなぎ目の部分が剥落して絵は明瞭でない。款記は上部と左に

「奉納御宝前

宝曆十庚辰九月吉祥日

願主 鈴木小治良

藤田平作」

と見える。

また、堂内に天明八年二月にここで開かれた句会の奉額があるが、材料は腐朽して読み難く、わずかに十六人の俳名が読みとれる。



武者絵（東浄寺薬師堂）